

200カイリ水域内漁業資源総合調査事業－Ⅷ（マダイ）

伊口 航平

【目的】

この調査は、200カイリ水域の設定に伴い水域内のマダイ資源を評価し、資源の維持培養及び高度利用の推進に資するための基礎資料を整備するために、全国的な調査の一環として実施した。

【方法】

1 水揚量推定

平成29年農林水産統計年報におけるマダイ水揚量を当センターの水揚市況データベース管理システム（以下水揚げシステム）で収集した平成29年のマダイ水揚量で除して算出した係数に、水揚げシステムで収集した平成30年のマダイ水揚量を乗じて平成30年の水揚量を推定し、国立研究開発法人水産研究・教育機構に提出した。この水揚量推定は東シナ海側と太平洋側に分けて行った。

これは、本県で漁獲されるマダイが東シナ海側は日本海西部・東シナ海系群、太平洋側は太平洋南部系群に属すると考えられているため、海域で分けて推定したものである。

【結果】

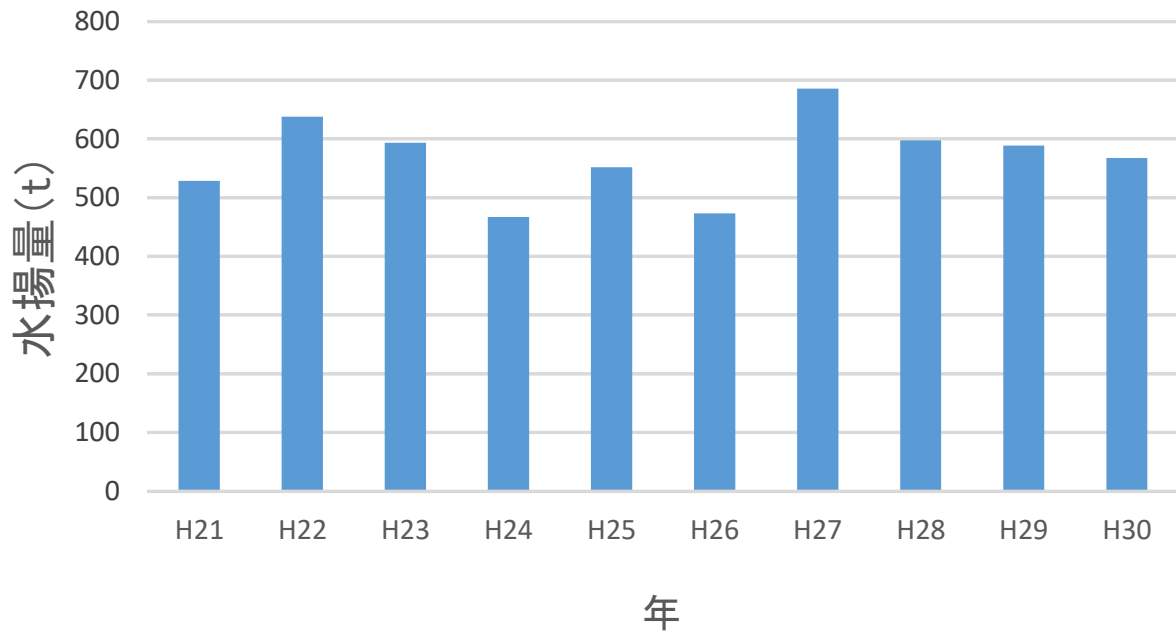
1 水揚量推定

平成30年の推定水揚量は、東シナ海側で567トン、太平洋側で22トンだった（図1）。

【今後の課題】

近年、本県でのマダイの水揚量は横ばい傾向にあるが、過去急激に減少する現象も見られたため（令和元年度鹿児島県水産技術開発センター事業報告書 豊かな海づくり広域推進事業-I）、水揚量の動向を注視するとともに基礎的な生物学的情報の収集・蓄積に努める必要がある。

マダイ推定水揚量(東シナ海側)



マダイ推定水揚量(太平洋側)

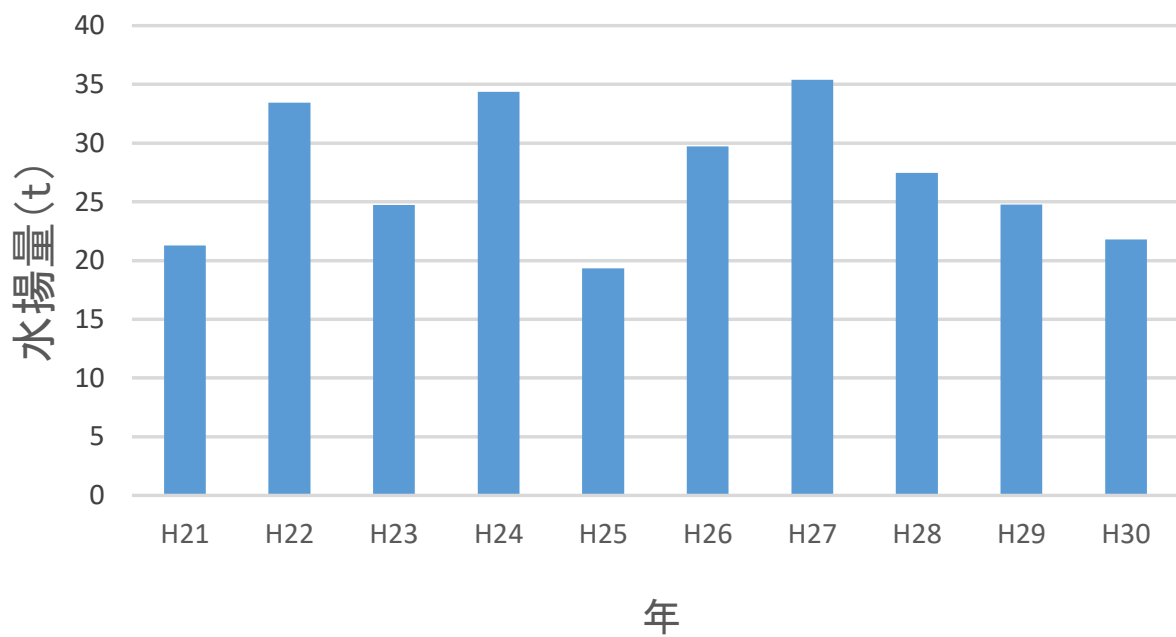


図1 東シナ海側, 太平洋側の推定水揚量 (H21~H30)